

鈴鹿市民の コミバスをよくする会ニュース

(第25号・2018年6月発行)

発行: (略称) **コミバスをよくする会**
事務局: 辻井良和 方
〒510-0234 鈴鹿市江島本町31-36
電話 059-386-0529 FAX 059-386-0646

関市のコミニティー バスを見学しました

路線方式中心に一般会計の1%を拠出 デマンド乗合タクシーで経費4割減も

5月18日に事務局4名で、岐阜県関市の「コミニティーバス」を見学に行きました。関市都市計画課課長補佐鈴木氏と総合交通・計画の片岡氏が説明してくれました。

関市は人口約9万人、面積は472平方キロと、人口は鈴鹿市の半分以下、面積は2.4倍程度ですが、その形は大型合併により「ハゲワシ」が両翼を思い切り上に挙げたような大きなV字形をしていて、西の翼(ウイングと呼んでいる)は、板取・洞戸・武芸川で温泉が有る農山村。東のウイングも上之保・武儀と、これも温泉と溪流の農山村地域です。

この長くて広い地域に、片道1時間半の地域から関市街に来るためのバスを、1日7往復も(運賃百円から三百円)運転しています。中心部の旧関市街

には、買い物循環バスや、少し離れた団地や地域間をつなぐバス(運賃百円子ども無料、障害者半額)、一部地域には、デマンド乗合タクシー(1回三百円)も開設しています。

大型合併した前の町や村には、その地域内を巡回するバスを5コースも無料で自主運営して、市民の足を確保しています。

これだけのバスを運営するのに関市は約3億円負担しています。関市の一般会計は約370億円ですから約1%をバスに使っています。全国的にも1%程度が使われていますから、「鈴鹿市民のコミバスをよくする会」の提案、無料デマンドバスで2億円弱は、0.3%と少なすぎるかも知れません。

もう一つ注目したのは、ある地域を回るバス路線を、デマンド乗合タクシーに置き換えたところ、利用者の人数が変わらないのに、費用が40%節約できたことです。定時運行の路線バスとデマンドの運行効率の違いを実感しました。見学会は、それぞれの市で実行方式の違いを見て、自分の市に引き比べてみる事ができます。今後の見学会にご希望の方をお誘いしたいと考えています。(辻井 良和)

発車オーライ

★アベ首相は、ウソがだんだん曝かれて、特区制度そのものが、誰かのための特別扱いだと国民が知るようになりました。国民が本当のことを知るようになる、ウソの政治は行きつまずります。

★「公共交通」という名で、私企業である交通運輸業者の利益を守るための法律があり、お客が少なすぎて儲からなくなると、存続のために税金から補助金を出してバス路線を守ってきました。鈴鹿市はCバスの運営委託という形で交通会社に税金を注ぎ込んでいますが、他市に比べると少ない額です。

★本場の「公共交通」とは、鈴鹿市という地方公共団体が、全ての住民の必要に応じて、使いやすい方法で、なるべく経済的に、自主的に判断するものであるべきですが、Cバスは充分にその役割を果たしているとは言えません。

★本当の自主的な住民のための公共交通を実現しようとする、交通運輸業者の利権を守る法律「略称・道路運送法」で、有料の交通機関(バス運営)を始めようとするれば「地域の交通会議」の「合意」が必要で、合意とは、会議に必ず参加している交通事業者が賛成することが必要です。鈴鹿市内を走るバス会社は、まだ儲けて走っていますから、お客を取られると賛成しません。有料では、いつまで待っても交通事業会社は賛成しません。

★いま、本当に誰でも利用できるコミバスやオンデマンドバスを待っているのは、免許証を返上しようと思っている高齢者や、自家用車を持たない子育て中の母親や家族です。

「お父さんがいる日しか買い物に行けない。」「配達食品では、新しいものや季節の珍しい物は買えない。」「子どもを図書館に連れて行きたいが、遠いので行けない。」「イベントは広告を見るだけで辛抱している。」

この人たちの声を生かして、「無料の生活交通」を実現したいと願っています。(T)



関市の公共交通を視察して

地域住民のニーズに合わせた多様な運行形態に感心

5月18日に「コミバスをよくする会」事務局4名で岐阜県関市をたずね、同市の公共交通の現状や今後の課題についてお話を伺いました。

刃物工芸で有名な関市ですが、人口減少と高齢化という社会の趨勢は関市にも波及してきて人口はピーク時(平成17年)の約9万7千人から現在9万人弱、65才以上が約3割を占め今後さらなる加速化が予測されています。

特に急峻な山間部もかかえる関市にとって過疎化への対応もせまられるなか、地域住民の足をどう確保していくか大事な課題になっていると思いました。

こうしたなか市の公共交通は唯一の鉄道である長良川鉄道に加え、①名古屋、岐阜市などへの高速バスを含む路線バスの運行、②路線バス廃止後、市とバス会社が協定を結び比較的山間部を走る自主運行バスの運行、③関市中心部は定時定路線バス(小型バス)とデマンド型(予約型)のバスとタクシーを組

み合わせた運行、④山間部を地域住民が自主的に運行する地域内バス(無料)の運行など、地域住民のニーズに合わせ多様な形態を組み合わせる工夫がされています。

そして現在、公共交通に年間3億円が市から支出されているとのこと。ちなみに財政規模1.5倍の鈴鹿市が公共交通にかけるお金は年間1億円だそうです。再検討できないものかと思ってしまう。

なお、関市では公共交通網形成計画といわれる交通政策の基本方針が策定され街の将来像を明確にえがかれています。その計画の中に「高齢者の生活ができるサービスの提供」がきちんと位置づけられている点は優れていると思いました。

私たちが暮らす鈴鹿市でも将来を見通した、高齢者にやさしい体系的な交通政策を確立していくことが重要だと感じました。

交通難民を生み出さないためにもそのことが急がれていると思います。(谷口 茂)



■ 関市の公共交通

← 関市運行バス

↓ 民間交通事業者

運行主体		系統	運賃
関市	運 自 行 主	牧谷線	100~300円
		岐阜板取線	100~300円
	関 シ テ ィ バ ス	関板取線	100~300円
		関上之保線	100~300円
		買い物循環線	100円
		市街地病院循環線	100円
		わかくさ・小金田線	100円
		わかくさ・千疋線	100円
		わかくさ・富野線	100円
		わかくさ・追間線	100円
		わかくさ・田原線	100円
		わかくさ・向山線	100円
	デマンド乗合タクシー	300円	
	地 域 内 バ ス	武芸川地域バス	無償
		洞戸地域バス	無償
板取地域バス		無償	
武儀地域バス		無償	
上之保地域バス		無償	

運行主体	系統	運賃
長良川鉄道	長良川鉄道	対距離制
岐阜乗合自動 車株式会社 (岐阜バス)	高速名古屋線	対距離制
	岐阜関線	対距離制
	倉知線	対距離制
	岐阜美濃線	対距離制
	高美線	対距離制
福祉有償運送(4団体)		有償
タクシー事業者(3営業所)		有償